

7. はつかいちならではの個性を育み、 誇り・愛着が持てるまちに

団塊世代の居場所づくりから、つながりのあるまちづくりへ

～四季が丘地区の住みよいまちづくり活動～

ひまわりと人の輪を咲かせよう ～花のある吉和づくり～

私たちのまちのルールは私たちの手で ～原地区景観協定～

次代につなぐ郷土の文化 ～宮島踊のDVD制作～

「歴史と文化を楽しむこと」から「まちへの愛着」へ ～はつかいち塾～

みんなの「ふるさと」を守りつづけるために ～大虫さくらまつり～

市民発案！地域の魅力紹介イベント ～とうもろこし食べようかい～

官民一体で国際大会を成功させよう ～ASTCアジアトライアスロン選手権2021廿日市～

地域とつながるワークショップの実施 ～住宅政策課の市営住宅セルフリフォーム～

団塊世代の居場所づくりから、つながりのあるまちづくりへ ～ 四季が丘地区の住みよいまちづくり活動 ～

■ 事業概要

info

四季が丘の公園等の剪定・清掃活動などを行い、地域の安全と安心のまちづくりに寄与する活動をされています。年末には地域の方を招いて歌声喫茶を開き、手作りクッキーなどでおもてなしをしたり、「井戸端会議」のメンバーから派生した里山ハイキング同好会やバラ愛好会などのグループづくりの活動にも取り組まれています。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

団塊世代の退職を控えていた平成 18 年に、公民館が退職される方々が地域活動に参加しやすくなるための受け皿として、「地域デビュー支援講座」を開催しました。その後「井戸端会議」を講座名とし、地域での仲間作りやまちづくりの輪に加わる入り口を提供しながら、気軽に話し合える場所づくりを目指す団体として活動がスタートしました。平成 24 年 5 月には公共施設里親（アダプト）制度による里親に認定され、現在は 28 人で活動されています。



石野 義之さん

井戸端会議

当初は飲食が中心の集まりでしたが、飲食だけでなく地域のために何かしようということで、団地内の公園の剪定作業から始めました。



藤田 章さん

最近では公園等の清掃に対して地域の方からの支援があり、私たちの活動が皆さんに認められてとても嬉しく思っています。また、自分たちで未来について話し合える場所にもなっています。毎年 12 月には歌声喫茶を開いており、地域の方々が毎年楽しみにしてくれています。



足立 勝さん

四季が丘市民センター

「井戸端会議」の活動は、団塊の世代の人たちが活躍する、これからの時代に必要な新しい形だと思っています。

今では「井戸端会議」のメンバーの方から派生して結成された里山ハイキング同好会やバラ愛好会など、本当に地域の受け皿となっています。

多くの方に評価される働きかけをして、できることは支援していきたいと思っています。そして「井戸端会議」という団体をもっと知ってもらいたいと思っています。

■ インタビューを終えて・・・

review

お金のたくさんいる時代だからこそ、自分たち市民が率先して活動していくことが必要であり、また市民と行政が自らのまちでお互いに汗を流し、無駄遣いを減らしていくべきだとお聞きしました。公園の剪定や清掃などをボランティアとして活動されており、「ありがとうございます。」という感謝の気持ちを伝えたいと思いました。

2012. 8. 29 インターシップ実習生取材

ひまわりと人の輪を咲かせよう

～ 花のある吉和づくり ～

■ 事業概要

info

吉和地域の各種団体に構成する「花のある吉和づくり実行委員会」主催で行われ、毎年ひまわりの植えボランティアを募集し、地域内外から多くの人に参加して行われる土に親しむ地域づくり活動です。満開となる吉和夏まつりの日には、ひまわりを摘み取り、ボランティア参加した方にプレゼントします。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

平成 15 年、地元のウッドワン美術館でゴッホの絵画『農婦』が特別展示されたのをきっかけに、細井原地区で“ゴッホの里・吉和 花のある地域づくり”をテーマにしたひまわりの植栽事業がスタート。地域住民やボランティアの協力などを得て農地面積を拡大しながら植栽本数を増やし、ひまわりを咲かせています。平成 24 年は、実行委員 10 団体のメンバーで企画実施され、約 150 人のボランティアの参加がありました。



花のある吉和づくり実行委員会

梶本 正五さん

地域の人が運営に関わり、地域外からボランティアが参加する取組です。ボランティアへの昼食は、地域のが地元の食材を使って準備してくれます。

高齢化が進んでいますが、毎年参加してくれる人がいるので継続が大切です。市職員もボランティアとして 100 人ぐらい参加してほしい！職員の姿が見えれば心強く感じますし、地域の人と一緒に汗をかくことで、地域のことが分かり合えると思います。



江田 愛さん



環境産業部 観光課

もっと多くの人にひまわりを見に吉和地域へ来てもらいたいと思います。

長谷川 大地さん

小路 正英さん

実行委員会への補助金交付事務だけでなく、ボランティアとしても関わり、吉和夏まつりにはひまわりがたくさん咲いているのを見て、地域の人と一緒に参加してよかったと感じました。

環境産業部内の職員にもボランティア参加を呼びかけ、これからも地域の人と一緒に汗をかいて、感動を味わいそれを伝えていきたいと思っています。

■ インタビューを終えて・・・

review

自分が住んでいない地域での地域活動に対して、私たち職員は、まずは地域への行事に参加することから始め、少しずつでも、地域のボランティアとして、次にスタッフとして関わり、さらに、深く地域の人と関われるようになれば、その地域の人との信頼関係が芽生えてくるのだと思いました。

2012. 9. 13 取材

私たちのまちのルールは私たちの手で

～ 原地区景観協定 ～

■ 事業概要

info

原地区では、平成 22 年 3 月、眺望や自然を生かした原のまちらしい景観をつくるためのルールとして「原地区景観協定」を作成しました。協定の内容検討も普及活動も、作成後、提出された協議書の審査も、すべて地区の住民が中心となって自主的に取り組んでいます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

平成 16 年に都市計画法が改正され、市街化調整区域への建築制限が緩和されました。「国道 433 号の拡幅整備が進むと、原地区にも高い建物が建ったり無秩序な開発が進むかもしれない」「眺望のよい、自然のある景観を守りたい」と、住民が危機感を持ったことが、取組の始まりでした。有志十数人で「原地区まちづくりの会」を結成し、専門家のアドバイスを受けながら先進地の視察や勉強会、まちの皆さんへの説明会などを進め、協定が策定されました。



上田 康之さん

原地区コミュニティ推進協議会 まちづくり部会「景観づくり倶楽部」

中学校の PTA 会長になったことをきっかけに地域の活動にもかかわるようになりました。

このルールづくりの取組では、地域に説明するたびに意見が飛び交い、練り直す作業が大変でした。でも「あきらめずにやる」「みんなでやる」「熱い気持ち」を大切に、ここまでやってきました。

まちは短期でできるものではありません。ルールの不備な点を改善しながら、また、後継者を巻き込みながら、取り組んでいます。



児玉 剛樹さん

建設部 都市・建築局 都市計画課

役所で仕事をしていると、制度を導入することが目的となってしまうがちですが、地元の人々の思い（目標）を叶える手法として制度を活用すべきだということに気づきました。

この協定は、紳士協定なので、守らない案件が出るとなし崩しになることも考えられ、不安です。これからも地域の皆さんの思いをしっかりとつないで、地元の人々のルールとして根づかせてほしいと思います。

■ インタビューを終えて・・・

review

自分の暮らすまちのルールを自分たちで考え決める、その後の運用も審査などもすべて自分たちで行う。市は、情報提供や技術支援など、住民の思いを達成するために力を発揮する。という、この取組は、住民主導のまちづくり、住民自治の一つの手本とも言える取組だと思いました。

2012. 9. 27 取材

次代につなぐ郷土の文化

～ 宮島踊の DVD 制作 ～

■ 事業概要

info

廿日市市の無形民俗文化財に指定されている宮島踊を次世代に伝える記録として、伴奏や踊り方を収録した DVD を制作しました。初めて踊りに挑戦する人でも、分かりやすい内容となっており、市内の図書館と市民センターで貸し出し、宮島観光協会で販売をしています。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

現在、宮島踊の伴奏や踊りができる人は、高齢化し、保存継承が喫緊の課題となっています。その上、今まで引継がれてきた宮島踊の記録の保存状態が悪化しており、過去の踊りを知ることができなくなりました。何とか「今」の宮島踊を後世に残していこう、と宮島芸能保存会は思い立ち、平成 20 年から宮島踊の DVD 制作を始めました。平成 23 年度に完成し、それまでの道りは長いものでしたが、メンバーにとって満足のできる作品となりました。



岡田 好江さん

宮島芸能保存会

DVD になったことが、新聞に掲載されたため、島外からも、問い合わせがあり、さまざまな人が関心を持ってくれたことが嬉しいです。島の子どもたちに、郷土で守ってきた宮島踊を伝えるのに、宮島学園で、三味線、太鼓、踊りなどを教える活動を定期的に行っています。

支所の方には、DVD 制作のアイデア出しや、広報活動など、さまざまな支援をしていただき、私たちは奮起して、制作に取り組むことができました。相談できる人がいることは、安心ですね。



田宮 憲明さん

宮島支所 地域づくり推進課

今いる人たちが宮島踊を守らなければ、絶えてしまうと思いました。市の役割としては、DVD という形で記録を残そうというアイデアを出しました。保存会側の「宮島踊を残したい！」という核となる強い「思い」があったからこそ、今回、このような形に残すことができたのだと思います。

今後も保存会がずっと続き、宮島踊を盛り上げていくためにも、皆さんが関心を持てるように、市は、ブログや広報紙で宮島踊の情報を発信していきます。

■ インタビューを終えて・・・

review

地域に最も身近である支所は、「支援」のメニューをいくつか手札として、常に持っていれば、市民の方からのさまざまな課題や要望などに迅速・適切に対応できます。宮島芸能保存会と宮島支所のように、市民の方が必要なときに、市がアイデアを提示できることが大切です。

2012. 9. 10 取材

「歴史と文化を楽しむこと」から「まちへの愛着」へ ～はつかいち塾～

■事業概要

info

廿日市地区の歴史的資産や伝統文化を、知り、学び、楽しむことを通じて、地域に愛着と関心を持ってもらうことを目的とした取組です。廿日市市郷土文化研究会、廿日市地区まちづくり協議会、中央市民センターの三者が「はつかいち塾」を構成し、日頃の活動で培ったつながりを生かして歴史講座や街道まつりを開催しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

マンションやミニ団地の建設等で、ここ数年、廿日市地区に新しく住み始める若い世代が増えています。古くから宿場町として栄えた「はつかいち」のよさを伝えたい、また、住民や世代間の交流を図りたいという三者共通の願いから、廿日市市郷土文化研究会の発案により、歴史や文化を生かしたまちづくりへの取組が本格的に始まりました。平成24年度に始めた街道まつりでは、山陽女子短期大学や広島工業大学と連携した「桶寿司の復活」と「iPadを使った歴史散策」、また、津和野街道や西国街道でつながる他地区の文化紹介などを行っています。



正木 康章さん

廿日市市郷土文化研究会 廿日市地区まちづくり協議会

「郷土の文化と歴史の研究活動をまちづくりにいかしたい。」「地域に暮らしている自分たちが主体となって、各種団体と連携しながらまちづくりを進めたい。」という思いから、街道まつりには、地元の獅子舞を始め、地区外からも玖島神楽団（佐伯地域）などに参加してもらいました。このように、まちづくりに歴史を盛り込み、知らない文化を交流させることが大切です。

答えを急がず横のつながりを大切に、目的をみんなで語り、進み方を共有しながら取り組んでいきたいです。



谷口 秀則さん

中央市民センター

市民センターは、広報、問合せ対応、申込み受付など、はつかいち塾の裏方的な役割を担っています。廿日市地区にはたくさんの歴史や文化があります。「学び」の視点を大切にしながら、これらを広く知ってもらい、地域への愛着につながるような事業を展開していきたい。しかし、単独ではできません。はつかいち塾の三者で協力し、一緒に取り組んでいきたいです。

2本の街道の接点に位置する市民センターは、地域づくりの拠点です。これからもみんなが集い、つながりが広がっていくよう役割を果たします。



小田 豊さん

■インタビューを終えて・・・

review

地縁型・テーマ型の団体と地域づくりの拠点である市民センターが連携して、まちの歴史や文化をうまく生かした取組です。楽しく学べる機会が身近なところにあり、自分たちが暮らしているまちに、関心を持つ人が増えていくことにつながっています。こうして関心を持った人たちが、今後まちづくりにかかわる人財となってもらえるよう、その巻き込みをどのように進めていくのか、つなぎ役となる市民センターの役割は重要だと思いました。

みんなの「ふるさと」を守りつづけるために ～大虫さくらまつり～

■事業概要

info

かつて住んでいた人がふるさとを思い出すきっかけになればと、佐伯地域の「大虫」という集落にゆかりのある地域住民を中心に実行委員会が立ち上がり、「大虫さくらまつり」が開催されました。樹齢300年と言われる枝垂れ桜の下、出身者によるステージや地元の民話をもとに作られた劇の上演など、ふるさとに思いを馳せる機会となりました。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市内には佐伯・吉和地域を中心に、20世帯未満で住民の半数以上が65歳を超えている集落が多く存在します。大虫の人口は9人（平成25年11月1日現在）、集落の維持も課題です。お互い支え合おうと平成19年度に設立された津田・四和ふれあいまちづくりの会では、平成20年度から「枝垂れ桜」（市天然記念物に指定）の保全活動に取り組んできました。お父様が「大虫」出身の伊藤里美さんは、佐伯高校の文化祭で大虫の民話劇「おそめ桜」を見たとき、「蘇った桜と共にこの劇をみんなで見たい」と。それぞれの取組や思いがつながり、この企画がスタートしました。



斉藤 真治さん

大虫さくらまつり実行委員会 津田・四和ふれあいまちづくりの会

1人を巻き込むと次々広がっていき、日頃のつながりがまつりの原動力だったと思います。平成20年度から取り組んできた枝垂れ桜の保全。回復し始めた桜を見てもらえる機会にもなりました。支所のみなさんが私たちを支えてくださり、感謝の気持ちでいっぱい。佐伯が好きになってくれたらうれしいです。「ふるさと」への思いが薄れている今日、「大虫応援隊*」としてこの集落や桜を見守ってくださる方も増えました。多くの人の「第二のふるさと」になればと思います。



伊藤 里美さん



古田 正貴さん



吉岡 航さん

佐伯支所地域づくりグループ

最初にこの企画を聞いたときにとっても興味を持ち、全力でバックアップしたいと思いました。まつり当日は一日中来場者の交通整理で会場には行けませんでした。来場者の表情や終了後の地元の方、実行委員の方の笑顔から、素敵なまつりになったのだということが伝わってきました。まつりを通して、最初は不安そうだった人々の気持ちが喜びへと変化していく様子を目の当たりにできたことは貴重な経験。「地域の思いを形にするためのサポート」、これこそが支所の役割だと実感しています。

■インタビューを終えて・・・

review

地域に住んでいる人だけでなく、さまざまな主体を巻き込み、開催した大虫さくらまつり。開催終了後も「大虫応援隊」のように継続的に地域にかかわる人を増やし、愛着をもってもらうこと、これが地域づくりの第一歩だと思いました。

2013. 11. 25 取材

※大虫応援隊：大虫地区と枝垂れ桜を見守る意識を少しでも多くの人に持ってもらうながら、これからも活動を続けていくことができるよう、まつりで会員を募集した。会費は500円。会員には季節の便りやイベント、春には桜の開花状況などのお知らせが届けられる。

市民発案！地域の魅力紹介イベント

～とうもろこし食べようかい～

■事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、市民センターでの事業を催すことが難しかった中、佐伯地域津田地区にある地元農産物の産直販売・軽食喫茶「ひふみ市場」さんの主催、津田市民センターの共催で、佐伯地域の特性を生かした、地元農作物の収穫体験「まるでフルーツ！ 採りたてとうもろこしを食べようかい↑」が、令和2年7月に開催されました。

info



■事業の背景やきっかけ

遊休農地や農業の担い手、支え手不足は、佐伯地域での深刻な地域課題の一つです。「ひふみ市場」の杉谷さんから、「地元の子どもたちに、美味しい農作物を食べて農業に関心を持ってほしい。将来は中山間地域でファーマーを目指してもらいたい。」そのための企画として、俵田さんが「ひふみ市場」裏の遊休農地で育てた生でも食べられる白いトウモロコシ「ピュアホワイト」の収穫体験と、地元産のいちごやさつまいものアイスクリーム販売をしてみたいのでサポートしてくれないかと持ち込まれ、チラシ作成や地域へのお知らせなどを、津田市民センターが後方支援しました。

introduction

トウモロコシ生産者

妻の実家の田が休耕田になりそうだったので、畑にして「ピュアホワイト」の栽培を始めました。それは自分が初めて食べたときに、あまりの美味しさに衝撃を受けたことがきっかけです。収穫体験した子どもたちの笑顔がとても印象的で、杉谷さんの提案がなければ、あの笑顔は見れなかったですし、植え付けもとの声があったので、来年のモチベーションになっています。こうしたイベントからコミュニティができれば、地域の農業が活性化すると思いますので、今後も頑張っていきたいです。



俵田 隆雄さん

津田市民センター

市民センターが最初の相談先に選ばれたことがうれしかったです。杉谷さんの思いに共感し、まずはイベント開催を経験し、次へとステップアップしていただきたいと考えました。また、参加者にトウモロコシ収穫という楽しさだけでなく、農業の現実を知っていただくことも社会教育ですので、イベント開催のノウハウを持つ市民センターとして、広報や行事保険、参加費などの事務的なサポートをしました。いずれは地域からのボランティアで運営され、市民センターは回りからサポートしていく形が理想と思っています。地域あつての市民センターなので、農業に関連することにも取り組むことで、津田地区のための市民センターになっていると思います。



日比野 稔さん

ひふみ市場

直売所では、佐伯と吉和地域で作られた野菜を扱っています。自分が食べて「美味しい！」と感動するものを、多くの人に知ってもらい、特に地域の子ども達に知ってほしい思いから、この企画を考えました。イベントの反響は大きく、参加した人から聞いて、直売所に訪れる人もいました。トウモロコシを求めて来る人も増え、地域の食材の魅力をPRできたのではないかなと思います。



杉谷 健二さん

■インタビューを終えて・・・

review

個人の思いに市民センターがつながることにより、社会教育や地域活性化としての取り組みになっています。俵田さんも杉谷さんも、農業に対する熱い思いをお持ちですが、イベントが二人にとって負担にならないよう、市民センターが上手くサポートしている好事例を知ることができました。

2020.11.11 取材

官民一体で国際大会を成功させよう！ ～ASTCアジアトライアスロン選手権2021廿日市～

■事業概要

info

スイム・バイク・ランの3種目を行うトライアスロン。令和3（2021）年4月24日・25日に、廿日市市でトライアスロンの国際大会、ASTCアジアトライアスロン選手権が、「挑戦」「勇気」「感動」をキャッチフレーズに開催されます。この大会は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の出場選手選考の対象になっています。廿日市市では官民によるASTCアジアトライアスロン選手権廿日市実行委員会を組織し、大会の成功に向けて取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

2019年3月に開催されたアジアトライアスロン同盟（ASTC）の理事会で、2020年のアジアトライアスロン選手権の開催地に、2016年に続いて廿日市市が選ばれました。大会の開催は、廿日市市の魅力を発信し、スポーツ推進や青少年の健全育成、国際交流、観光振興などへの効果が期待されるので、関係機関・団体による実行委員会を組織し、官民一体となって開催に向け取り組んでいくことになりました。

なお、大会は世界における新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年の開催は一時休止に。その後、国際トライアスロン連合を始めとする関係団体との協議の結果、2021年に開催することになっています。



古田正貴さん

ASTC アジアトライアスロン選手権 廿日市実行委員会

2016年の大会運営に、初めての国際大会としては多くのボランティア参加がありました。私が所属するスポーツ協会を含め、各種団体の皆様が深い関心と誇りを持ち、今回の大会開催を待ち遠しく思っているところです。また、前回からのコースの変更についても、地元の理解と協力をいただき感謝しています。

コロナ禍ですが、大会に向けての熱意は下がっておらず、小中学生などの若年層に周知しながら、スポーツの普及・振興に向け、関心を高めていきたいです。

市全体で盛り上げ、大会が成功するよう積極的に取り組んでいきます。



對中智博さん

教育委員会 アジアトライアスロン推進室

大会を開催するにあたり、協賛企業を始め、コース周辺の住民や事業所、海上や道路の管理者など皆様からご理解とご協力をいただくことが大切です。

スポーツの力強さや感動を体感でき、廿日市市を世界にアピールする機会となるように、官民一体となって取り組んでいます。

選手や関係者が安全に、安心して大会に参加いただくことを第一として、万全の準備を整えます。

■インタビューを終えて・・・

review

関係団体と行政で構成された「実行委員会」により、大会の開催に向けて取り組む協働事例です。そして、大会は市民ボランティアや沿道の事業者など多くの方々に関わることで、開催できることも知りました。このコロナ禍の中、大会が成功することで、ますます市民のボランティア力が高まることと思います。

2020.11.12・11.17取材

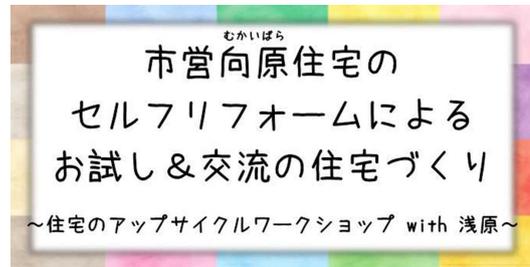
2021
新着

地域とつながるワークショップの実施 ～住宅政策課の市営住宅セルフリフォーム～

■実践事例

info

近年、田舎暮らしを求めて移住してくるなど、中山間地域の人気が高くなっていますが、地区によっては提供できる住宅が余りにも少な過ぎる状況です。住宅政策課では、お試しで住める住宅があればとの思いから、募集停止になっている市営住宅のセルフリフォームに取り組みました。



■実践内容

main



1. この取り組みのきっかけ

佐伯地域の浅原地区は、若い家族が移住してくるなど、沿岸部から来られる方が増えていました。同地区には、募集停止に伴って、使われていない部屋が発生している市営向原住宅がありましたので、この一室を綺麗に改修して、お試しで住んでいただける住宅にしようというプロジェクトを開始することになりました。

2. どのようなワークショップ？

市営住宅の改修に対する地域の考えを聞き、関心や理解を得るため、ワークショップによって事業説明と意見交換を行い、その後もワークショップ形式でセルフリフォームをすることにしました。このワークショップには、現在の地域住民だけでなく、この市営住宅に住んでいた方、浅原に移住された方に誘われた方などが参加し、ワークショップでは専門家の方々先生とさせていただくなど、多様な方々の協働でリフォームに取り組みました。



3. 結果として

ワークショップによって様々な意見が聞け、専門家の先生の方が借りられたので、質の高いリフォームができました。また、普段は関わりがない方々の交流もでき、参加者も地域も、満足度の高い取り組みになりました。

■協働に近づけるポイントは？

review

行政だけではできないことがたくさんあります。人と人とのつながりにより、協力を求めることが大切です。そのためにも、様々な方に声をかけるのがよいでしょう。

2021.10.19 研修発表表から